



IFES Issues and Analysis - NO.36 [2015-13] Dec. 15, 2015

2015年の評価と2016年の見通し：北朝鮮経済

 梁文秀
 北韓大学院大学教授
 msyang@kyungnam.ac.kr

慶南大極東問題研究所は「2015年の評価と2016年の展望」をテーマとする「懸案診断」を計4回発行・配布致します。前回の「北朝鮮内部の情勢」に続き、今回は「北朝鮮経済」について考察し、今後は▼朝鮮半島情勢▼南北関係——を取り上げる予定です。

ここ数年間の北朝鮮経済の分析には2つの異なる見解がある。相対的な好転論と、依然とした停滞・低迷論がそれである。こうした論争は韓国銀行(中央銀行)による北朝鮮の実質国民総所得(GNI)推計値の信頼性をめぐる論争に直結する。そして、この論争の中心には北朝鮮の市場化(または非公式経済)という現象が存在する。

韓国銀行の推計結果によると、北朝鮮は2000年代後半からマイナス成長とプラス成長を繰り返し、2011年から2014年まで4年連続でプラス成長を記録した。だが、成長率は0.8~1.3%にすぎない。

しかし、一部の専門家らは韓国銀行の推計結果が最近活気があふれている市場経済活動を反映しておらず、したがって最近の北朝鮮経済は韓国銀行の推計結果より良好な状態、例えば経済成長率が1~2ポイント高い可能性が大きいとみている。一方、北朝鮮の市場化を消極的に評価する専門家らは韓国銀行の推定値をおおむね受け入れ、北朝鮮経済の停滞・低迷を主張している。

最近の北朝鮮経済をけん引してきた2つの大きな原動力が中朝貿易と市場化である。この2つが同じ方向で動く場合は北朝鮮経済の方向性に関する専門家らの見解がおおむね一致するが、2015年のように反対方向に動く場合は見解の違いが生じる。問題は中朝貿易は統計で把握できるが、市場化は統計で把握できないという非対称的な性格のため、専門家らの見解の違いが縮まらないということである。

北朝鮮経済の部門別の動きをみると、国連食糧農業機関(FAO)と世界食糧計画(WFP)がまとめた北朝鮮の食糧生産は2010年の450万トンから2014年には503万トンと、53万トン(11.8%)も増加した。しかし、2015年に入って食糧生産に赤信号がともった。今年上半期、北朝鮮は深刻な干ばつに見舞われ、今年の作柄に与える影響を懸念する声が高まっていた。FAOは今年の北朝鮮の食糧生産量が昨年比で14%減少、韓国の著名な北朝鮮農業専門家は10%減少するとの見通しを示した。

大韓貿易投資振興公社(KOTRA)の推計によると、2014年の中朝貿易は68億6000万ドルとなり再び過去最高を更新したが、前年比の伸び率は4.9%にとどまり、北朝鮮の対中輸出は同2.5%減となった。そして、北朝鮮の主力輸出品である無煙炭と鉄鉱石の輸出は2014年、前年比でそれぞれ17.7%減、25.7%減となった。2015年上半期中朝貿易は輸出(10.6%減)、輸入(15.8%減)といずれも大きく落ち込んだ。無煙炭の輸出は1.6%減にとどまったが、鉄鉱石の輸出は70.3%減となった。

対中輸出不振により、外貨収入の確保に影響が出たことを受け、北朝鮮当局は海外観光客の誘致拡大や中国・ロシアなど海外への労働力送出の拡大に総力を挙げている。ただ、期待した成果を出しているかどうかは不明だ。

北朝鮮の市場物価と為替の動きは比較的に安定している。2009年12月に電撃的に実施された貨幣改革後の3年間、つまり2010年から2012年まで北朝鮮は急激な物価と為替の上昇に見舞われた。しかし、2013年1月から2015年12月初めまでのコメの価格は1キロ当たり6000ウォン以下、為替は1ドル=9000ウォン以下で安定した動きを見せている。

3年間維持されている物価と為替の安定的な動きは極めて異例である。特に、北朝鮮当局の政策的な取り組みとの関連性が注目される。専門家は背景に▼ドル化(dollarization)の急速な進行による北朝鮮ウォン貨の流通減少▼コメの生産拡大と北朝鮮当局の備蓄米放出▼市場化の進行によるコメの保管や流通システムの改善▼北朝鮮当局の通貨増刷抑制の努力——などがあると分析しているが、専門家らの間で一致した見解は出ていない。

一方、北朝鮮の市場は2010年以降、再び速度を上げている。金正日(キム・ジョンイル)政権末期と金正恩(キム・ジョンウン)政権発足後の政策は従来とは違う様相を呈している。当局がさまざまな形で市場に介入し、市場を公式制度内に組み入れると同時に市場を成長させている。携帯電話市場、不動産市場が代表的である。

もちろん、北朝鮮が中国のように公に、そして法・制度的に支援して市場化を促進していないのは明らかである。しかし、完全に非公開で推進しているわけではなく、法・制度的な支援が全くないとは言いがたい。代表的なものが生産手段の私的所有に関するもので、法的には厳しく禁止されているが、機関・企業の傘下に編入させるとの条件の下で認めているとされる。機関・企業は個人所有の生産手段に名義を貸し、部分的な合法性を与え、事実上の税金を受け取る。「社会主義の帽子」をかぶらせる政策、つまり「グレー(grey)地帯」政策である。これが北朝鮮式の市場化、「北朝鮮式改革」の特徴である。

市場に対する金正恩政権の政策ベースが許容よりも少し高いレベルであることを鮮明に見せているのが「ウリ(われわれ)式の経済管理方法」である。5・30措置とも呼ばれる同措置は、農場や工場の運営において市場に関する非合法的または半合法的な活動の相当部分を合法化し、これを通じ「市場」をより積極的に活用しようとしている。したがって市場化は申し分なく良い環境を提供され、大きな弾みがついている。

総合的にみると、2012年の金正恩政権発足後から2014年まで、北朝鮮経済は微弱ながら低成長を維持したとみられる。これについて、北朝鮮の市場化を積極的に評価する者は同時期に北朝鮮経済が相対的に好転したと分析している反面、北朝鮮の市場化を消極的に評価する者は北朝鮮経済がプラス成長を維持したとしても依然として困難な状況だと分析している。

2015年は様相が若干異なる。否定的な要因が目立つ。まず、食糧生産が昨年より減少するおそれがある。さらに大きな要因は貿易である。最大の外貨獲得事業である中朝貿易が大幅に減少する傾向にある。特に、中国経済の成長鈍化による需要減少などにより、石炭、鉄鉱石など鉱産物の対中輸出の見通しがかんまり悪い。もちろん、北朝鮮当局は海外観光客の誘致拡大、海外への労働力送出拡大など対策づくりに総力を挙げている。また、国内外の外食・レジャー・娯楽サービス施設を拡充し、継続的に新たな市場を創出することで、中間層や富裕層が保有している外貨を吸収しようとする、いわゆる「国内外貨獲得」に熱を上げている。ただ、こうした新たな外貨収入源の増大を通じて鉱産物の外貨収入減少分を補えるかについては得られる情報がない。

一方、肯定的な要因もある。市場物価と為替は依然として安定している。特に、今年の食糧生産が昨年より減少すると外部での見通しが優勢となっているが、北朝鮮内部では秋の刈り入れが終わった12月初めまで市場のコメの価格は動揺を見せていない。ミステリアスな出来事である。また、北朝鮮の市場化は2015年にはさらに弾みがついている。貿易部門の衝撃が市場化に悪影響を与えるはずだが、現時点でそうした雰囲気は見られない。

このように2015年の北朝鮮経済は否定的な要因と肯定的な要因が共存、交差している。そして、残念ながらどの要因がより大きいかを判断できる根拠を得られていない。北朝鮮の市場化を消極的に評価する者は2015年の北朝鮮経済の否定的な側面を強調し、北朝鮮の市場化を積極的に評価する者は反対の立場を取ると思われる。

折衝的・妥協的というと、2015年の北朝鮮経済は2014年より悪化しても大きくは悪化しないとみられる。2014年と大した差はない可能性もある。一部では北朝鮮経済が本格的な低迷期に入る可能性すら示されているが、性急すぎる分析である。

2016年の北朝鮮経済を予測することは決して容易ではない。ただ、経済政策の方向に関しては、中国のように改革・開放を公に表明することは当分は期待しにくい。静かに推進する「北朝鮮式改革・開放」が続けられる可能性が高い。

2016年5月の第7回党大会で、経済分野に言及しないとは考えにくい。ただ、原則論的・抽象的なレベルを上回らないと思われる。人民生活の向上に関する部分は含まれる公算が大きく、社会主義原則の維持も表明するとみられる。経済分野の新しく遠大なビジョンが示される可能性もある。しかし、具体的な戦略まで示される可能性は大きくない。また、現在推進している措置を超える新たな措置、画期的な措置を発表する可能性、例えば自律性やインセンティブ拡大を柱とする「ウ

り式経済管理方法」の拡大・発展・全面化に乗り出すかどうかは依然不透明である。

—上記の内容は著者の意見であり、極東問題研究所の公式な立場を示すものではありません。

—メーリングリストに登録をご希望の方はお名前や電子メールアドレス、所属先を下記のメールアドレスまでお送りください。 ifes@kyungnam.ac.kr

You can remove your email address from our mailing list by clicking link below

[\[No longer receive e-mail\]](#)



경남대학교 극동문제연구소
The Institute for Far Eastern Studies

COPYRIGHT(C) 2010 IFES ALL RIGHTS RESERVED
2(Samcheong-dong) Bukchon-ro 15-gil, Jongno-gu, Seoul 110-230,
Republic of Korea
TEL. +82-2-3700-0739 FAX. +82-2-3700-0707
EMAIL. ifes@kyungnam.ac.kr